

大学番号：089

[平成29年度設置]

計画の区分： 学部の設置

認可

津田塾大学 総合政策学部

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人津田塾大学
平成29年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 千駄ヶ谷キャンパス事務室

職名・氏名 ヨコハマ ショウコ
横浜 生子

電話番号 03-6447-5911

（夜間） 03-3478-7230

F A X 03-6447-5913

e-mail sc-office@tsuda.ac.jp

- （注）1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。
例） 〇〇大学 △△学部 □□学科
（◇◇学部（平成◇◇年度より学部名称変更））
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例）
・大学新設の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」
- 3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

総合政策学部

<総合政策学科>

ページ

1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	11
4. 既設大学等の状況	12
5. 教員組織の状況	14
6. 留意事項等に対する履行状況等	33
7. その他全般的事項	35

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人津田塾大学

(2) 大 学 名

津田塾大学

(3) 大学の位置

〒51-0051

東京都渋谷区千駄ヶ谷1-18-24

(〒187-8577

東京都小平市津田町2-1-1)

(注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。

・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(シマダ セイイチ) 島田 精一 平成24年12月20日		
学 長	(タカハシ ユウコ) 高橋 裕子 (平成28年4月1日)		
学 部 長	(カヤノ トシヒト) 萱野 稔人 (平成29年4月1日)		
学科長等	(コダテ アキヒサ) 小舘 亮之 (平成29年4月1日)		

(注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。

・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成26年度開設の4年制の学科の場合(平成29年度までの4年間)ですが、開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
総合政策学部 総合政策学科 (学士(総合政策学))	法学	年 4	人 110	年次 人 0	人 440	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区分	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	110人 (-) [-]	人 (-) [-]	1.47倍	
志願者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	2141 (-) [-]	- (-) [-]		
受験者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	2096 (-) [-]	- (-) [-]		
合格者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	530 (-) [-]	- (-) [-]		
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	162 (-) [-]	- (-) [-]		
入学定員超過率 B/A							1.47			

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	162 [—] —	— [—] (—)	
2 年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	— [—] (—)	— [—] (—)	
3 年次			/		[] ()	[] ()	— [—] (—)	— [—] (—)	
4 年次					/		— [—] (—)	— [—] (—)	
計							162 [—] (—)		

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数 (b)	退学者数 (a)	退学者数 (内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成26年度 入学者	人	人	平成26年度	人	人		%
			平成27年度	人	人		
			平成28年度	人	人		
			平成29年度	人	人		
平成27年度 入学者	人	0 人	平成27年度	人	人		%
			平成28年度	人	人		
			平成29年度	人	人		
平成28年度 入学者	人	0 人	平成28年度	人	人		%
			平成29年度	人	人		
平成29年度 入学者	162 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00 %
合 計	162 人	0 人					0.00 %

(注)・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)」により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
- (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

＜総合政策学部 総合政策学科＞

（１）授業科目表

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手		
基礎 科目	Basics of Interpersonal Communication for Problem Solving (BI-CPS) (課題解決のためのイン ター・パーソナル・コミュ ニケーションの基礎) I A	1前	1				1				兼4 兼3	集中。教育効果維持のためクラス増 とした。(29)
	Interpersonal Communication for Problem Solving (I-CPS) (課題解決のためのイン ター・パーソナル・コミュ ニケーション) I B	1後	1				1				兼4 兼3	集中。教育効果維持のためクラス増 とした。(29)
	Compassionate Communication for Problem Solving (C-CPS) (課題解決のためのコン パッション・ネット・コミュ ニケーション) I C	1後	1				1				兼4 兼3	集中。教育効果維持のためクラス増 とした。(29)
	Content-based Listening and Discussion (CBLD) (内容重視の英語運用) I A	1前	1				1				兼4 兼3	集中。教育効果維持のためクラス増 とした。(29)
	Content-based Listening and Discussion (CBLD) (内容重視の英語運用) I B	1後	1				1				兼4 兼3	集中。教育効果維持のためクラス増 とした。(29)
	Content-based Listening and Discussion (CBLD) (内容重視の英語運用) I C	1後	1				1				兼4 兼3	集中。教育効果維持のためクラス増 とした。(29)
	Content-based Reading (CBR) (内容重視の英文読解) I A	1前	1			2					兼6 兼4	集中。教育効果維持のためクラス増 とした。(29)
	Content-based Reading (CBR) (内容重視の英文読解) I B	1後	1			2					兼6 兼4	集中。教育効果維持のためクラス増 とした。(29)
	Content-based Reading (CBR) (内容重視の英文読解) I C	1後	1			2					兼6 兼4	集中。教育効果維持のためクラス増 とした。(29)
	Content-based Writing (CBW) (内容重視の英語作文) I A	1前	1			2					兼6 兼4	集中。教育効果維持のためクラス増 とした。(29)
	Content-based Writing (CBW) (内容重視の英語作文) I B	1後	1			2					兼6 兼4	集中。教育効果維持のためクラス増 とした。(29)
	Content-based Writing (CBW) (内容重視の英語作文) I C	1後	1			2					兼6 兼4	集中。集中。教育効果維持のためク ラス増とした。(29)
	Negotiation Communication for Problem Solving (N-CPS) (課題解決のためのネゴシ エーション・コミュニケー ション) II A	2前	1				1				兼3	集中
	Conflict Resolution Communication for Problem Solving (CR-CPS) (課題解決のためのコンフ リクト・レゾリューション ・コミュニケーション) II B	2後	1				1				兼3	集中

基礎 科目	英語 科目	Mediation Communication for Problem Solving (M- CPS) (課題解決のためのミ ディエーション・コミュニ ケーション) IIC	2後	1				1				兼3	集中
		Critical Thinking in Content-based Listening and Discussion (CT-CBLD) (クリティカル・シンキン グ力を養う内容重視の英語 運用) IIA	2前	1				1				兼3	集中
		Critical Thinking in Content-based Listening and Discussion (CT-CBLD) (クリティカル・シンキン グ力を養う内容重視の英語 運用) IIB	2後	1				1				兼3	集中
		Critical Thinking in Content-based Listening and Discussion (CT-CBLD) (クリティカル・シンキン グ力を養う内容重視の英語 運用) IIC	2後	1				1				兼3	集中
		Critical Thinking in Content-based Reading (CT-CBR) (内容重視の英文読解にお けるクリティカル・シンキ ング) IIA	2前	1			2					兼5	集中
		Critical Thinking in Content-based Reading (CT-CBR) (内容重視の英文読解にお けるクリティカル・シンキ ング) IIB	2後	1			2					兼5	集中
		Critical Thinking in Content-based Reading (CT-CBR) (内容重視の英文読解にお けるクリティカル・シンキ ング) IIC	2後	1			2					兼5	集中
		Content-based Process Writing (CBPW) (内容重視のプロセス英語 作文) IIA	2前	1			2					兼5	集中
		Content-based Process Writing (CBPW) (内容重視のプロセス英語 作文) IIB	2後	1			2					兼5	集中
		Content-based Process Writing (CBPW) (内容重視のプロセス英語 作文) IIC	2後	1			2					兼5	集中
		Leadership Communication for Problem Solving (L- CPS) (課題解決のためのリー ダーシップ・コミュニケー ション) IIIA	3前	1				1				兼3	集中
		Management Communication for Problem Solving (M- CPS) (課題解決のためのマネジ メント・コミュニケーション) IIIB	3後	1				1				兼3	集中
		Skills Integration in Communication for Problem Solving (SI-CPS) (課題解決のためのコミュ ニケーション) IIIC	3後	1				1				兼3	集中
		Basics of Content-based Presentation Skills (B- CBPS) (内容重視のプレゼ ンテーション力養成の基 礎) IIIA	3前	1				1				兼3	集中

基礎科目	英語科目	Delivering Competency in Content-based Presentation Skills (DC-CBPS) (内容重視のプレゼンテーション力養成) III B	3後	1				1				兼3	集中
		Interactive Competency in Content-based Presentation Skills (IC-CPS) (内容重視のプレゼンテーション力養成) III C	3後	1				1				兼3	集中
		Economics-oriented Advanced Reading (EO-AR) (経済的課題の上級英文読解) III A	3前	1			2					兼5	集中
		Law-oriented Advanced Reading (LO-AR) (法的課題の上級英文読解) III B	3後	1			2					兼5	集中
		Politics-oriented Advanced Reading (PO-AR) (政治的課題の上級英文読解) III C	3後	1			2					兼5	集中
		Basics of Academic Writing (B-AW) (アカデミック・ライティングの基礎) III A	3前	1			2					兼5	集中
		Research for Academic Writing (R-AW) (アカデミック・ライティングのためのリサーチ) III B	3後	1			2					兼5	集中
		Problem-solution in Academic Writing (PS-AW) (アカデミック・ライティングにおける課題解決論文) III C	3後	1			2					兼5	集中
	セミナー	1年セミナーA	1前	1			9	2					集中
		1年セミナーB	1後	1			9	2					集中
		1年セミナーC	1後	1			9	2					集中
		2年セミナーA	2前	1			9	2					集中
		2年セミナーB	2後	1			9	2					集中
		2年セミナーC	2後	1			9	2					集中
	ルソ・エン・サイ	政治とは何か	1前	2			1						集中
		経済の仕組み	1後	2				1					集中
		法から見た社会	1後	2			1						集中
		計量経済の基礎	1後	2				1					集中
	サイデー・タ・エン・ス	データ・サイエンス入門 (演習付講義)	1前	2			1						集中
		統計Ⅰ (演習付講義)	1後	2						1			※講義
		会計 (演習付講義)	1後	2									集中
		経済分析 (演習付講義)	2前	2			1						※講義
		アルゴリズム (演習付講義)	2後	2			1						集中
		統計Ⅱ (演習付講義)	2後	2						1			※講義
	概論	総合政策概論A	1前	1			1						集中
		総合政策概論B	1後	1			1						集中
基礎科目	課題解決関連科目	バブリック・ポリシー	分配のポリティクス	1前		2						兼1	集中
			グローバリゼーション論	1後		2		1					集中
			地域政策論	1後		2		1					集中
			政治参加	2前		2			1				集中
			平和構築	2前		2						兼1	集中
			プロバガンダとアドボカ	2後		2						兼1	集中
			文化交流論	2後		2						兼1	集中
			市民社会における安全保障	3前		2		1					集中
			法制度設計	3前		2						兼1	集中
			統治システム論	3後		2		1					集中
			公共管理	3後		2		1					集中
			環境政策論	3後		2						兼1	集中
			国際標準化論	3後		2		1					集中
			企業の社会的責任	1前		2						兼1	集中
		エコノミクス・マネジメント	雇用経済論	1後		2						兼1	集中
			マーケティング戦略	2前		2						兼1	集中
			イノベーションと社会	2後		2						兼1	集中
			多国籍企業論	2後		2			1				集中
			知的財産法	3前		2							集中
			世界の開発と貧困問題	3後		2		1					集中
			医療・介護の経済分析	3後		2		1					集中

- ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼○」と記入してください。
- ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。（今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。）
- ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等（平成１９年度認可以前）についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
科目 61	科目 70	科目 14	科目 145	科目 61 [0]	科目 70 [0]	科目 17 [3]	科目 148 [3]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：１科目減の場合：△１）

(3) 未開講科目 該当なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目 該当なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{145} = \boxed{} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	(例) 校舎敷地と別地 (徒歩〇分)			
	校 舎 敷 地	77,852㎡	0㎡	0㎡	77,852㎡				
	運動場用地	9,852㎡	0㎡	0㎡	9,852㎡				
	小 計	87,704㎡	0㎡	0㎡	87,704㎡				
	そ の 他	16,312㎡	0㎡	0㎡	16,312㎡				
	合 計	104,016㎡	0㎡	0㎡	104,016㎡				
(2) 校 舎		専 用 39,765㎡ 39,134㎡ (39,765㎡ 39,134㎡)	共 用 0㎡ (0㎡)	共用する他の学校等の専用 0㎡ (0㎡)	計 39,765㎡ 39,134㎡ (39,765㎡ 39,134㎡)	新校舎の建物登記を行ったため登記面積に合わせて変更。			
(3) 教 室 等		講 義 室 10室	演 習 室 13室	実験実習室 0室	情報処理学習施設 0室 (補助職員 0人)	語学学習施設 0室 (補助職員 0人)			
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称 総合政策学部 総合政策学科			室 数 25 室				
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	図書には電子書籍 1,537点を含む。 学術雑誌は電子形態での購読を原則とした。	
	総合政策学部	21,000 [7,000] 17,057 [5,950]	120 [80] 備考参照	3,300 [3200] 3,622 [3,010]	1,600 944	0 (0)	0 (0)		
	計	21,000 [7,000] 17,057 [5,950]	120 [80] 備考参照	3,300 [3200] 3,622 [3,010]	1,600 944	0 (0)	0 (0)		
(6) 図 書 館		面 積 512㎡		閱 覧 座 席 数 128		収 納 可 能 冊 数 20,000			
(7) 体 育 館		面 積 0㎡		体育館以外のスポーツ施設の概要					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	研究費予算の見直し 購入図書変更 設備購入時費用削減
		教員1人当り研究費等	350千円 3,500千円	350千円 1,119千円	図書購入費	45,102千円 45,000千円	2,500千円	2,500千円	
		共同研究費等	40,000千円 1,000千円	40,000千円 1,000千円	設備購入費	326,778千円 500,000千円	17,666千円	55,752千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	学費見直し	
		1,280千円 1,310千円	1,093千円 1,123千円	1,106千円 1,136千円	1,119千円 1,149千円	—	—		
	学生納付金以外の維持方法の概要		国庫補助金、雑収入等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	津 田 塾 大 学								備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
年	人	年次 人	人			倍			
《 A C 対象学部等》									
総合政策学部									
総合政策学科	4年	110人	—	440人	学士 (総合政策学)	1.47	平成29年度	東京都渋谷区千駄ヶ 谷1丁目18番24号	
学芸学部									
英文学科	4年	245人	—	980人	学士 (英文学)	1.12	昭和23年	東京都小平市津田町 2丁目1番1号	
国際関係学科	4年	245人	—	980人	学士 (国際関係学)	1.1	昭和44年	同上	
数学科	4年	45人	—	180人	学士 (理学)	1.22	平成18年	同上	
情報科学科	4年	45人	—	180人	学士 (理学)	1.27	平成18年	同上	
大学院									
文学研究科									
修士課程	2年	15人	—	30人	修士 (文学)	0.83	昭和38年	東京都小平市津田町 2丁目1番1号	
後期博士課程	3年	5人	—	15人	博士 (文学)	0.66	昭和40年	同上	
国際関係学研究科									
修士課程	2年	10人	—	20人	修士 (国際関係学)	0.15	昭和49年	東京都小平市津田町 2丁目1番1号	
後期博士課程	3年	3人	—	9人	博士 (国際関係学)	0.33	昭和51年	同上	
理学研究科数学専攻									
修士課程	2年	5人	—	10人	修士 (理学)	0.7	昭和38年	東京都小平市津田町 2丁目1番1号	
後期博士課程	3年	2人	—	6人	博士 (理学)	0	昭和47年	同上	
理学研究科情報科学専攻									
修士課程	2年	5人	—	10人	修士 (理学)	1.1	平成22年	東京都小平市津田町 2丁目1番1号	
後期博士課程	3年	1人	—	3人	博士 (理学)	0.33	平成24年	同上	
大 学 の 名 称	〇 〇 短 期 大 学								備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
年	人	年次 人	人			倍			

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が設置している全ての大学（学部，学科），大学院（専攻）及び短期大学（学科）（ＡＣ対象学部等含む）について，それぞれの学校種ごとに，平成２９年５月１日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部・学科または研究科の専攻等，「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には，課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
※なお，課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は，法令上規定されている組織上の最小単位（大学であれば「学科」，短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては，記入する必要はありません。
 - ・ＡＣ対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には，標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第２位まで（小数点以下第３位を切り捨て）を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合，入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「－」とし，「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<総合政策学部 総合政策学科>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	田近 裕子	平成29年4月	Content-based Reading (CBR) (内容重視の英文読解) I A Content-based Reading (CBR) (内容重視の英文読解) I B Content-based Reading (CBR) (内容重視の英文読解) I C Content-based Writing (CBW) (内容重視の英語作文) I A Content-based Writing (CBW) (内容重視の英語作文) I B Content-based Writing (CBW) (内容重視の英語作文) I C Critical Thinking in Content-based Reading (CT-CBR) (内容重視の英文読解におけるクリティカル・シンキング) II A Critical Thinking in Content-based Reading (CT-CBR) (内容重視の英文読解におけるクリティカル・シンキング) II B Critical Thinking in Content-based Reading (CT-CBR) (内容重視の英文読解におけるクリティカル・シンキング) II C Content-based Process Writing (CBPW) (内容重視のプロセス英語作文) II A Content-based Process Writing (CBPW) (内容重視のプロセス英語作文) II B Content-based Process Writing (CBPW) (内容重視のプロセス英語作文) II C Economics-oriented Advanced Reading (EO-AR) (経済的課題の上級英文読解) III A Law-oriented Advanced Reading (LO-AR) (法的課題の上級英文読解) III B Politics-oriented Advanced Reading (PO-AR) (政治的課題の上級英文読解) III C Basics of Academic Writing (B-AW) (アカデミック・ライティングの基礎) III A Research for Academic Writing (R-AW) (アカデミック・ライティングのためのリサーチ) III B Problem-solution in Academic Writing (PS-AW) (アカデミック・ライティングにおける課						

				題解決論文) III C 語学研修						
専	教授	成田 眞澄	平成32年4月	Content-based Reading (CBR) (内 容重視の英文読解) I A Content-based Reading (CBR) (内 容重視の英文読解) I B Content-based Reading (CBR) (内 容重視の英文読解) I C Content-based Writing (CBW) (内 容重視の英語作文) I A Content-based Writing (CBW) (内 容重視の英語作文) I B Content-based Writing (CBW) (内 容重視の英語作文) I C Critical Thinking in Content-based Reading (CT- CBR) (内容重視の英 文読解におけるクリ ティカル・シンキン グ) II A Critical Thinking in Content-based Reading (CT- CBR) (内容重視の英 文読解におけるクリ ティカル・シンキン グ) II B Critical Thinking in Content-based Reading (CT- CBR) (内容重視の英 文読解におけるクリ ティカル・シンキン グ) II C Content-based Process Writing (CBPW) (内容重視の プロセス英語作文) II A Content-based Process Writing (CBPW) (内容重視の プロセス英語作文) II B Content-based Process Writing (CBPW) (内容重視の プロセス英語作文) II C Economics-oriented Advanced Reading (EO-AR) (経済的課 題の上級英文読解) III A Law-oriented Advanced Reading (LO-AR) (法的課題 の上級英文読解) III B Politics-oriented Advanced Reading (PO-AR) (政治的課 題の上級英文読解) III C Basics of Academic Writing (B-AW) (ア カデミック・ライ ティングの基礎) III A Research for Academic Writing (R-AW) (アカデミッ ク・ライティングの ためのリサーチ) III B Problem-solution in Academic Writing (PS-AW) (ア カデミック・ライ ティングにおける課 題解決論文) III C 語学研修						
				Content-based Reading (CBR) (内 容重視の英文読解) I A						

専	教授	奥脇（梅本） 奈津美	平成29年4月	Content-based Reading (CBR) (内容重視の英文読解) I B Content-based Reading (CBR) (内容重視の英文読解) I C Content-based Writing (CBW) (内容重視の英語作文) I A Content-based Writing (CBW) (内容重視の英語作文) I B Content-based Writing (CBW) (内容重視の英語作文) I C Critical Thinking in Content-based Reading (CT-CBR) (内容重視の英文読解におけるクリティカル・シンキング) II A Critical Thinking in Content-based Reading (CT-CBR) (内容重視の英文読解におけるクリティカル・シンキング) II B Critical Thinking in Content-based Reading (CT-CBR) (内容重視の英文読解におけるクリティカル・シンキング) II C Content-based Process Writing (CBPW) (内容重視のプロセス英語作文) II A Content-based Process Writing (CBPW) (内容重視のプロセス英語作文) II B Content-based Process Writing (CBPW) (内容重視のプロセス英語作文) II C Economics-oriented Advanced Reading (EO-AR) (経済的課題の上級英文読解) III A Law-oriented Advanced Reading (LO-AR) (法的課題の上級英文読解) III B Politics-oriented Advanced Reading (PO-AR) (政治的課題の上級英文読解) III C Basics of Academic Writing (B-AW) (アカデミック・ライティングの基礎) III A Research for Academic Writing (R-AW) (アカデミック・ライティングのためのリサーチ) III B Problem-solution in Academic Writing (PS-AW) (アカデミック・ライティングにおける課題解決論文) III C						
専	教授	大島（岡本） 美穂	平成29年4月	グローバル化 市民社会における安全保障 グローバル・ポリティクス論 1年セミナーA 1年セミナーB 1年セミナーC 2年セミナーA 2年セミナーB 2年セミナーC 3年セミナーA 3年セミナーB 3年セミナーC 4年セミナーA 4年セミナーB 4年セミナーC 卒業研究プロジェクト						

専	教授	津曲 俊英	平成29年7月	法からみた社会 統治システム論 日本の財政・金融 1年セミナーA 1年セミナーB 1年セミナーC 2年セミナーA 2年セミナーB 2年セミナーC 3年セミナーA 3年セミナーB 3年セミナーC 4年セミナーA 4年セミナーB 4年セミナーC 卒業研究プロジェクト						
専	教授	森田 朗	平成29年4月	地域政策論 公共管理 行政学 1年セミナーA 1年セミナーB 1年セミナーC 2年セミナーA 2年セミナーB 2年セミナーC 3年セミナーA 3年セミナーB 3年セミナーC 4年セミナーA 4年セミナーB 4年セミナーC 卒業研究プロジェクト						
専	教授	新海 尚子	平成30年4月	経済分析（演習付講義） 世界の開発と貧困問題 貿易政策論 1年セミナーA 1年セミナーB 1年セミナーC 2年セミナーA 2年セミナーB 2年セミナーC 3年セミナーA 3年セミナーB 3年セミナーC 4年セミナーA 4年セミナーB 4年セミナーC 卒業研究プロジェクト						
専	教授	小舘 亮之	平成29年4月	データ・サイエンス 入門（演習付講義） アルゴリズム（演習付講義） インターネット概論 1年セミナーA 1年セミナーB 1年セミナーC 2年セミナーA 2年セミナーB 2年セミナーC 3年セミナーA 3年セミナーB 3年セミナーC 4年セミナーA 4年セミナーB 4年セミナーC 卒業研究プロジェクト インターンシップ						
専	教授	曾根原 登	平成29年4月	国際標準化論 情報通信技術と社会 データ政策科学 1年セミナーA 1年セミナーB 1年セミナーC 2年セミナーA 2年セミナーB 2年セミナーC 3年セミナーA 3年セミナーB 3年セミナーC 4年セミナーA 4年セミナーB 4年セミナーC 卒業研究プロジェクト						

専	教授	萱野 稔人	平成29年4月	政治とは何か 総合政策概論A 総合政策概論B 公共哲学 1年セミナーA 1年セミナーB 1年セミナーC 2年セミナーA 2年セミナーB 2年セミナーC 3年セミナーA 3年セミナーB 3年セミナーC 4年セミナーA 4年セミナーB 4年セミナーC 卒業研究プロジェクト						
専	教授	森川（渡邊） 美絵	平成29年4月	地域ケア論 福祉政策論 能力開発論 1年セミナーA 1年セミナーB 1年セミナーC 2年セミナーA 2年セミナーB 2年セミナーC 3年セミナーA 3年セミナーB 3年セミナーC 4年セミナーA 4年セミナーB 4年セミナーC 卒業研究プロジェクト						
専	教授	伊藤 るり	平成30年4月	ジェンダーと社会変動 人の国際移動と社会 の多文化化 ダイバーシティ社会 論 1年セミナーA 1年セミナーB 1年セミナーC 2年セミナーA 2年セミナーB 2年セミナーC 3年セミナーA 3年セミナーB 3年セミナーC 4年セミナーA 4年セミナーB 4年セミナーC 卒業研究プロジェクト						
				Basics of Interpersonal Communication for Problem Solving (BI-CPS) (課題解決 のためのインター・ パーソナル・コミュ ニケーションの基 礎) IA Interpersonal Communication for Problem Solving (I-CPS) (課題解決 のためのインター・ パーソナル・コミュ ニケーション) IB Compassionate Communication for Problem Solving (C-CPS) (課題解決 のためのコンパッ シオネット・コミュ ニケーション) IC Content-based Listening and Discussion (CBLD) (内容重視の英語運 用) IA Content-based Listening and Discussion (CBLD) (内容重視の英語運 用) IB Content-based Listening and Discussion (CBLD) (内容重視の英語運 用) IC Negotiation Communication for Problem Solving (N-CPS) (課題解決 のためのネゴシエー ション・コミュニケ ーション) IIA Conflict Resolution Communication for Problem Solving (CR-CPS) (課題解決 のためのコンフリク ト・レゾリューション・ コミュニケーション) IIB						

専	准教授	Gavan Patrick Gray	平成29年4月	Mediation Communication for Problem Solving (M-CPS) (課題解決のためのミーディエーション・コミュニケーション) IIC Critical Thinking in Content-based Listening and Discussion (CT-CBLD) (クリティカル・シンキング力を養う内容重視の英語運用) IIA Critical Thinking in Content-based Listening and Discussion (CT-CBLD) (クリティカル・シンキング力を養う内容重視の英語運用) IIB Critical Thinking in Content-based Listening and Discussion (CT-CBLD) (クリティカル・シンキング力を養う内容重視の英語運用) IIC Leadership Communication for Problem Solving (L-CPS) (課題解決のためのリーダーシップ・コミュニケーション) IIIA Management Communication for Problem Solving (M-CPS) (課題解決のためのマネジメント・コミュニケーション) IIIB Skills Integration in Communication for Problem Solving (SI-CPS) (課題解決のためのコミュニケーション) IIIC Basics of Content-based Presentation Skills (B-CBPS) (内容重視のプレゼンテーション力養成の基礎) IIIA Delivering Competency in Content-based Presentation Skills (DC-CBPS) (内容重視のプレゼンテーション力養成) IIIB Interactive Competency in Content-based Presentation Skills (IC-CPS) (内容重視のプレゼンテーション力養成) IIIC						
専	准教授	中條 美和	平成30年4月	政治参加 政治制度論 実証政治理論 1年セミナーA 1年セミナーB 1年セミナーC 2年セミナーA 2年セミナーB 2年セミナーC 3年セミナーA 3年セミナーB 3年セミナーC 4年セミナーA 4年セミナーB 4年セミナーC 卒業研究プロジェクト						
				経済の仕組み 計量経済の基礎						

専	准教授	伊藤（安福） 由希子	平成29年4月	多国籍企業論 医療・介護の経済分 析 ミクロ・マクロ経済 分析 1年セミナーA 1年セミナーB 1年セミナーC 2年セミナーA 2年セミナーB 2年セミナーC 3年セミナーA 3年セミナーB 3年セミナーC 4年セミナーA 4年セミナーB 4年セミナーC 卒業研究プロジェク ト						
専	助教	鈴木 貴久	平成29年4月	統計Ⅰ（演習付講 義） 統計Ⅱ（演習付講 義） Web情報システム論 社会調査入門 プログラミング入門						
兼任	准教授	柴田 邦臣	平成30年4月	ソーシャルインク ルーション論						
兼任	講師	船林 麻理	平成29年4月	Content-based Reading (CBR) (内 容重視の英文読解) ⅠA Content-based Reading (CBR) (内 容重視の英文読解) ⅠB Content-based Reading (CBR) (内 容重視の英文読解) ⅠC Content-based Writing (CBW) (内 容重視の英語作文) ⅠA Content-based Writing (CBW) (内 容重視の英語作文) ⅠB Content-based Writing (CBW) (内 容重視の英語作文) ⅠC						
兼任	講師	大島 万里子	平成29年4月	Content-based Reading (CBR) (内 容重視の英文読解) ⅠA Content-based Reading (CBR) (内 容重視の英文読解) ⅠB Content-based Reading (CBR) (内 容重視の英文読解) ⅠC Content-based Writing (CBW) (内 容重視の英語作文) ⅠA Content-based Writing (CBW) (内 容重視の英語作文) ⅠB Content-based Writing (CBW) (内 容重視の英語作文) ⅠC						
兼任	講師	津島 玲子	平成29年4月	Content-based Reading (CBR) (内 容重視の英文読解) ⅠA Content-based Reading (CBR) (内 容重視の英文読解) ⅠB Content-based Reading (CBR) (内 容重視の英文読解) ⅠC Content-based Writing (CBW) (内 容重視の英語作文) ⅠA Content-based Writing (CBW) (内 容重視の英語作文) ⅠB Content-based Writing (CBW) (内 容重視の英語作文) ⅠC						
				Content-based Reading (CBR) (内 容重視の英文読解) ⅠA						

兼任	講師	廣田 尚美	平成29年4月	Content-based Reading (CBR) (内容重視の英文読解) IB Content-based Reading (CBR) (内容重視の英文読解) IC Content-based Writing (CBW) (内容重視の英語作文) IA Content-based Writing (CBW) (内容重視の英語作文) IB Content-based Writing (CBW) (内容重視の英語作文) IC						
兼任	講師	Thomas George Meyer	平成29年4月	Content-based Listening and Discussion (CBLD) (内容重視の英語運用) IA Content-based Listening and Discussion (CBLD) (内容重視の英語運用) IB Content-based Listening and Discussion (CBLD) (内容重視の英語運用) IC						
兼任	講師	Michael Rayner	平成29年4月	Basics of Interpersonal Communication for Problem Solving (BI-CPS) (課題解決のためのインター・パーソナル・コミュニケーションの基礎) IA Interpersonal Communication for Problem Solving (I-CPS) (課題解決のためのインター・パーソナル・コミュニケーション) IB Compassionate Communication for Problem Solving (C-CPS) (課題解決のためのコンパッション・コミュニケーション) IC						
兼任	講師	Robert Dale Hinton	平成29年4月	Basics of Interpersonal Communication for Problem Solving (BI-CPS) (課題解決のためのインター・パーソナル・コミュニケーションの基礎) IA Interpersonal Communication for Problem Solving (I-CPS) (課題解決のためのインター・パーソナル・コミュニケーション) IB Compassionate Communication for Problem Solving (C-CPS) (課題解決のためのコンパッション・コミュニケーション) IC Negotiation Communication for Problem Solving (N-CPS) (課題解決のためのネゴシエーション・コミュニケーション) IIA Conflict Resolution Communication for Problem Solving (CR-CPS) (課題解決のためのコンフリクト・レゾリューション・コミュニケーション) IIB Mediation Communication for Problem Solving (M-CPS) (課題解決のためのミーディエーション・コミュニケーション) IIC Leadership						

				Communication for Problem Solving (L-CPS) (課題解決のためのリーダーシップ・コミュニケーション) IIIA Management Communication for Problem Solving (M-CPS) (課題解決のためのマネジメント・コミュニケーション) IIIB Skills Integration in Communication for Problem Solving (SI-CPS) (課題解決のためのコミュニケーション) IIIC						
兼任	講師	Joel Weinberg	平成29年4月	Basics of Interpersonal Communication for Problem Solving (BI-CPS) (課題解決のためのインター・パーソナル・コミュニケーションの基礎) IA Interpersonal Communication for Problem Solving (I-CPS) (課題解決のためのインター・パーソナル・コミュニケーション) IB Compassionate Communication for Problem Solving (C-CPS) (課題解決のためのコンパッション・コミュニケーション) IC Critical Thinking in Content-based Listening and Discussion (CT-CBLD) (クリティカル・シンキング力を養う内容重視の英語運用) IIA Critical Thinking in Content-based Listening and Discussion (CT-CBLD) (クリティカル・シンキング力を養う内容重視の英語運用) IIB Critical Thinking in Content-based Listening and Discussion (CT-CBLD) (クリティカル・シンキング力を養う内容重視の英語運用) IIC Leadership Communication for Problem Solving (L-CPS) (課題解決のためのリーダーシップ・コミュニケーション) IIIA Management Communication for Problem Solving (M-CPS) (課題解決のためのマネジメント・コミュニケーション) IIIB Skills Integration in Communication for Problem Solving (SI-CPS) (課題解決のためのコミュニケーション) IIIC						
				Content-based Listening and Discussion (CBLD) (内容重視の英語運用) IA Content-based					Content-based Listening and Discussion (CBLD) (内容重視の英語運用) IA Content-based	

兼任	講師	Richard King Tai	平成29年4月	Listening and Discussion (CBLD) (内容重視の英語運用) IB Content-based Listening and Discussion (CBLD) (内容重視の英語運用) IC Negotiation Communication for Problem Solving (N-CPS) (課題解決のためのネゴシエーション・コミュニケーション) IIA Conflict Resolution Communication for Problem Solving (CR-CPS) (課題解決のためのコンフリクト・レゾリューション・コミュニケーション) IIB Mediation Communication for Problem Solving(M-CPS) (課題解決のためのミーディエーション・コミュニケーション) IIC	兼任	講師	Richard King Tai	〈平成29年4月〉	Listening and Discussion (CBLD) (内容重視の英語運用) IB Content-based Listening and Discussion (CBLD) (内容重視の英語運用) IC Negotiation Communication for Problem Solving (N-CPS) (課題解決のためのネゴシエーション・コミュニケーション) IIA Conflict Resolution Communication for Problem Solving (CR-CPS) (課題解決のためのコンフリクト・レゾリューション・コミュニケーション) IIB Mediation Communication for Problem Solving(M-CPS) (課題解決のためのミーディエーション・コミュニケーション) IIC Basics of Interpersonal Communication for Problem Solving (BI-CPS) (課題解決のためのインター・パーソナル・コミュニケーションの基礎) IA Interpersonal Communication for Problem Solving (I-CPS) (課題解決のためのインター・パーソナル・コミュニケーション) IB Compassionate Communication for Problem Solving (C-CPS) (課題解決のためのコンパッションネット・コミュニケーション) IC International Training Course B	教育効果維持のためクラス増とした。(29)	大学全体でギャップターム活用のため科目設置することとなった。(29)
兼任	講師	David Pinkney	平成29年4月	Content-based Listening and Discussion (CBLD) (内容重視の英語運用) IA Content-based Listening and Discussion (CBLD) (内容重視の英語運用) IB Content-based Listening and Discussion (CBLD) (内容重視の英語運用) IC Negotiation Communication for Problem Solving (N-CPS) (課題解決のためのネゴシエーション・コミュニケーション) IIA Conflict Resolution Communication for Problem Solving (CR-CPS) (課題解決のためのコンフリクト・レゾリューション・コミュニケーション) IIB Mediation Communication for Problem Solving(M-CPS) (課題解決のためのミーディエーション・コミュニケーション) IIC Basics of Content-based Presentation Skills(B-CBPS) (内容重視のプレゼンテーション力養成の							

				基礎) IIIA Delivering Competency in Content-based Presentation Skills (DC-CBPS) (内容重視のプレゼンテーション力養成) IIIB Interactive Competency in Content-based Presentation Skills (IC-CPS) (内容重視のプレゼンテーション力養成) IIIC						
					兼任	講師	大島 幸	平成29年4月	Content-based Reading (CBR) (内 容重視の英文読 解) IA Content-based Reading (CBR) (内 容重視の英文読 解) IB Content-based Reading (CBR) (内 容重視の英文読 解) IC Content-based Writing (CBW) (内 容重視の英語作 文) IA Content-based Writing (CBW) (内 容重視の英語作 文) IB Content-based Writing (CBW) (内 容重視の英語作 文) IC	教育効果維持のためクラス増とした。(29)
兼任	講師	熊野 真理	平成30年4月	Critical Thinking in Content-based Reading (CT- CBR) (内容重視の英 文読解におけるクリ ティカル・シンキン グ) IIA Critical Thinking in Content-based Reading (CT- CBR) (内容重視の英 文読解におけるクリ ティカル・シンキン グ) IIB Critical Thinking in Content-based Reading (CT- CBR) (内容重視の英 文読解におけるクリ ティカル・シンキン グ) IIC Content-based Process Writing (CBPW) (内容重視の プロセス英語作文) IIA Content-based Process Writing (CBPW) (内容重視の プロセス英語作文) IIB Content-based Process Writing (CBPW) (内容重視の プロセス英語作文) IIC						
兼任	講師	石黒 真理子	平成30年4月	Critical Thinking in Content-based Reading (CT- CBR) (内容重視の英 文読解におけるクリ ティカル・シンキン グ) IIA Critical Thinking in Content-based Reading (CT- CBR) (内容重視の英 文読解におけるクリ ティカル・シンキン グ) IIB Critical Thinking in Content-based Reading (CT- CBR) (内容重視の英 文読解におけるクリ ティカル・シンキン グ) IIC						

兼任	講師	井上 恵子	平成30年4月	Critical Thinking in Content-based Reading (CT- CBR) (内容重視の英 文読解におけるクリ ティカル・シンキン グ) II A Critical Thinking in Content-based Reading (CT- CBR) (内容重視の英 文読解におけるクリ ティカル・シンキン グ) II B Critical Thinking in Content-based Reading (CT- CBR) (内容重視の英 文読解におけるクリ ティカル・シンキン グ) II C						
兼任	講師	目黒 一生	平成30年4月	Critical Thinking in Content-based Reading (CT- CBR) (内容重視の英 文読解におけるクリ ティカル・シンキン グ) II A Critical Thinking in Content-based Reading (CT- CBR) (内容重視の英 文読解におけるクリ ティカル・シンキン グ) II B Critical Thinking in Content-based Reading (CT- CBR) (内容重視の英 文読解におけるクリ ティカル・シンキン グ) II C Content-based Process Writing (CBPW) (内容重視の プロセス英語作文) II A Content-based Process Writing (CBPW) (内容重視の プロセス英語作文) II B Content-based Process Writing (CBPW) (内容重視の プロセス英語作文) II C						
兼任	講師	執行 智子	平成30年4月	Critical Thinking in Content-based Reading (CT- CBR) (内容重視の英 文読解におけるクリ ティカル・シンキン グ) II A Critical Thinking in Content-based Reading (CT- CBR) (内容重視の英 文読解におけるクリ ティカル・シンキン グ) II B Critical Thinking in Content-based Reading (CT- CBR) (内容重視の英 文読解におけるクリ ティカル・シンキン グ) II C Content-based Process Writing (CBPW) (内容重視の プロセス英語作文) II A Content-based Process Writing (CBPW) (内容重視の プロセス英語作文) II B Content-based Process Writing (CBPW) (内容重視の プロセス英語作文) II C						
兼任	講師	町田 晶子	平成30年4月	Content-based Process Writing (CBPW) (内容重視の プロセス英語作文) II A Content-based Process Writing (CBPW) (内容重視の プロセス英語作文) II B Content-based Process Writing (CBPW) (内容重視の プロセス英語作文)						

				プロセス英語作文) IIC						
兼任	講師	小坂 洋子	平成30年4月	Content-based Process Writing (CBPW) (内容重視のプロセス英語作文) IIA Content-based Process Writing (CBPW) (内容重視のプロセス英語作文) IIB Content-based Process Writing (CBPW) (内容重視のプロセス英語作文) IIC						
兼任	講師	Clarence Ray Bussinger	平成30年4月	Critical Thinking in Content-based Listening and Discussion (CT-CBLD) (クリティカル・シンキング力を養う内容重視の英語運用) IIA Critical Thinking in Content-based Listening and Discussion (CT-CBLD) (クリティカル・シンキング力を養う内容重視の英語運用) IIB Critical Thinking in Content-based Listening and Discussion (CT-CBLD) (クリティカル・シンキング力を養う内容重視の英語運用) IIC	兼任	講師	Clarence Ray Bussinger	平成29年4月	Critical Thinking in Content-based Listening and Discussion (CT-CBLD) (クリティカル・シンキング力を養う内容重視の英語運用) IIA Critical Thinking in Content-based Listening and Discussion (CT-CBLD) (クリティカル・シンキング力を養う内容重視の英語運用) IIB Critical Thinking in Content-based Listening and Discussion (CT-CBLD) (クリティカル・シンキング力を養う内容重視の英語運用) IIC Content-based Listening and Discussion (CBLD) (内容重視の英語運用) IA Content-based Listening and Discussion (CBLD) (内容重視の英語運用) IB Content-based Listening and Discussion (CBLD) (内容重視の英語運用) IC	教育効果維持のためクラス増とした。(29)
兼任	講師	Andy Maggs	平成30年4月	Critical Thinking in Content-based Listening and Discussion (CT-CBLD) (クリティカル・シンキング力を養う内容重視の英語運用) IIA Critical Thinking in Content-based Listening and Discussion (CT-CBLD) (クリティカル・シンキング力を養う内容重視の英語運用) IIB Critical Thinking in Content-based Listening and Discussion (CT-CBLD) (クリティカル・シンキング力を養う内容重視の英語運用) IIC						
兼任	講師	村野 緑	平成31年4月	Basics of Academic Writing (B-AW) (アカデミック・ライティングの基礎) IIIA Research for Academic Writing (R-AW) (アカデミック・ライティングのためのリサーチ) IIIB Problem-solution in Academic Writing (PS-AW) (アカデミック・ライティングにおける課題解決論文) IIIC						

兼任	講師	伊藤 幸子	平成31年4月	Economics-oriented Advanced Reading (EO-AR) (経済的課題の上級英文読解) IIIA Law-oriented Advanced Reading (LO-AR) (法的課題の上級英文読解) IIIB Politics-oriented Advanced Reading (PO-AR) (政治的課題の上級英文読解) IIIC Basics of Academic Writing (B-AW) (アカデミック・ライティングの基礎) IIIA Research for Academic Writing (R-AW) (アカデミック・ライティングのためのリサーチ) IIIB Problem-solution in Academic Writing (PS-AW) (アカデミック・ライティングにおける課題解決論文) IIIC						
兼任	講師	Peter John Collins	平成31年4月	Economics-oriented Advanced Reading (EO-AR) (経済的課題の上級英文読解) IIIA Law-oriented Advanced Reading (LO-AR) (法的課題の上級英文読解) IIIB Politics-oriented Advanced Reading (PO-AR) (政治的課題の上級英文読解) IIIC Basics of Academic Writing (B-AW) (アカデミック・ライティングの基礎) IIIA Research for Academic Writing (R-AW) (アカデミック・ライティングのためのリサーチ) IIIB Problem-solution in Academic Writing (PS-AW) (アカデミック・ライティングにおける課題解決論文) IIIC						
兼任	講師	Geoffrey Pierce	平成31年4月	Basics of Content-based Presentation Skills (B-CBPS) (内容重視のプレゼンテーション力養成の基礎) IIIA Delivering Competency in Content-based Presentation Skills (DC-CBPS) (内容重視のプレゼンテーション力養成) IIIB Interactive Competency in Content-based Presentation Skills (IC-CPS) (内容重視のプレゼンテーション力養成) IIIC						
兼任	講師	峰松 和子	平成31年4月	Economics-oriented Advanced Reading (EO-AR) (経済的課題の上級英文読解) IIIA Law-oriented Advanced Reading (LO-AR) (法的課題の上級英文読解) IIIB Politics-oriented Advanced Reading (PO-AR) (政治的課題の上級英文読解) IIIC Basics of Academic Writing (B-AW) (アカデミック・ライティングの基礎) IIIA						

兼任	講師	Robert Spivak	平成31年4月	Competency in Content-based Presentation Skills (DC-CBPS) (内容重視のプレゼンテーション力養成) III B Interactive Competency in Content-based Presentation Skills (IC-CPS) (内容重視のプレゼンテーション力養成) III C							
兼任	講師	荒田 (下川) 映子	平成29年4月	会計 (演習付講義)							
兼任	講師	福原 明雄	平成29年4月	分配のポリティクス 共生社会と法							
兼任	講師	黒田 順子	平成30年4月	平和構築	兼任	講師	黒田 順子	平成29年4月	平和構築 International Training Course A	大学全体でギャップターム活用のため科目設置することとなった。(29)	
兼任	講師	金 敬繁	平成30年4月	プロパガンダとアドボカシー							
兼任	講師	山田 朋美	平成30年4月	文化交流論							
兼任	講師	西村 善嗣	平成31年4月	法制度設計							
兼任	講師	眞田 康弘	平成31年4月	環境政策論							
兼任	講師	舘 健太郎	平成29年4月	企業の社会的責任							
兼任	講師	中川 まり	平成29年4月	雇用経済論							
兼任	講師	加藤 拓	平成30年4月	マーケティング戦略							
兼任	講師	中村 豪	平成30年4月	イノベーションと社会							
兼任	講師	澤田 悠紀	平成31年4月	知的財産法							
兼任	講師	松本 泰	平成30年4月	情報セキュリティ論							
兼任	講師	雨森 拓児	平成30年4月	メディア産業論							
兼任	講師	村上 文洋	平成31年4月	スマートコミュニティ論							
兼任	講師	渡辺 克也	平成31年4月	情報通信政策							
兼任	講師	宮澤 一洋	平成31年4月	経営情報システム							
兼任	講師	花澤 隆	平成31年4月	技術経営論							
兼任	講師	福重 秀文	平成31年4月	健康医療情報システム							
兼任	講師	村木 厚子	平成29年4月	社会実践の諸相 女性のキャリア開発							
兼任	講師	原 由利子	平成29年4月	コミュニティスタディ							
兼任	講師	泉田 信行	平成30年4月	少子高齢化の進展と社会保障の持続可能性							
兼任	講師	岩田 美香	平成30年4月	子どもの貧困と教育格差							
兼任	講師	工藤 恵子	平成31年4月	ソーシャル・ヘルス・マネジメント							
兼任	講師	中村 明雄	平成30年4月	法と公共政策							
兼任	講師	室伏 康志	平成30年4月	経済活動のための法							
兼任	講師	小宮 京	平成30年4月	日本政治史							
兼任	講師	山口 みどり	平成30年4月	現代経営論							
兼任	講師	萱場 豊	平成31年4月	行動経済分析							
兼任	講師	森嶋(松尾) 由紀子	平成30年4月	質的調査法							
兼任	講師	原田 奈美	平成30年4月	プロジェクト・マネジメント							
兼任	講師	和田 かず美	平成31年4月	多変量解析と公的統計							
兼任	講師	梶山(斉藤) 朋子	平成31年4月	アプリケーション開発							
兼任	講師	鷹田 佳典	平成30年4月	社会学概論 家族社会学							
兼任	講師	西村 幸満	平成30年4月	社会階層論							
兼任	講師	松下 優一	平成31年4月	現代社会論							
兼任	講師	坪 洋一	平成31年4月	福祉国家論							
兼任	講師	細川 雄一郎	平成29年4月	クリティカル・シンキング							
兼任	講師	高尾 賢一郎	平成29年4月	世界の宗教と社会							

兼任	講師	折田 明子	平成29年4月	ソーシャル・デザイン論							
兼任	講師	佐久間 寛	平成29年4月	経済人類学							
兼任	講師	野澤 聡	平成29年4月	科学技術と文明							
兼任	講師	小阪 裕城	平成29年4月	歴史入門							
兼任	講師	大原(磯村) 悦子	平成29年4月	キャリア入門A キャリア入門B キャリア入門C 日本語ライティングA 日本語ライティングB							
					兼任	講師	鈴木 秀紀	平成29年4月	事業戦略とイノベーション	大学全体でギャップターム活用のため科目設置することとなった。(29)	

(注)・申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。

- ・後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
- ・辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
- ・年齢は、「**設置時の計画**」には**当該学部等の就任時における満年齢**を、「**変更状況**」には**平成29年5月1日現在の満年齢**を記入してください。
- ・教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
- ・**認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
- ・「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。

なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
15 名	14 名

(注)・大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在(報告書提出時)の状況					現在(報告書提出時)の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)
11	3	0	1	15	8	2	0	1	11	11	3	0	1	15
(8)	(2)	(0)	(1)	(11)						[0]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注)・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入してください。

- ・「現在(報告書提出時)の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
- ・「現在(報告書提出時)の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例:1名減の場合:△1)

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢(歳)	報告書提出時(上記(A))の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時(上記(B))の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
68 歳	0 名	1 名

(注)・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。

・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況 該当なし

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由				
合 計（A）					後任補充状況の集計（B）					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
人		必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
		選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
		自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
		計	科目	計	科目	計	科目	計	科目	

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況 該当なし

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合 計（C）					後任補充状況の集計（D）					
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
人		必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
		選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
		自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
		計	科目	計	科目	計	科目	計	科目	

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合 計（A）+（C）					後任補充状況の集計（B）+（D）				
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）
0 人		必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
		選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
		自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
		計	科目	計	科目	計	科目	計	科目

- (注) ・ 就任辞退（未就任）及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」 該当なし

--

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成28年8月)	学位の分野が法学のみのため、その他の学位の分野を含んでいるとの誤解を招かないよう、課題領域名や当該課題領域に対応する科目区分名を適切に改めること。	留意事項 学位の分野が法学であることを履修要覧の「学則」に記載することで周知し、さらにその他の学位の分野を含んでいるとの誤解を招かないよう、申請時に「エコノミック・マネジメント」としていた課題領域名を「エコノミック・ポリシー」と変更し、履修要覧のカリキュラム表を作成し、学生に周知するようにした。(29)	
	本学の「エコノミック・マネジメント」の定義を、関係者の意見調整や政策等を客観的に評価することなどとするのであれば、政策調整や政策評価に関する科目を開設すること。	留意事項	政策調整や政策評価に関する科目を2018年度以降に開設することを2017年度から検討を開始する。
	本学における「総合政策学」は、グローバル化、IT化及び少子高齢化などに起因する社会問題を幅広く捉え、解決策を追究するものと理解しているが、概論科目として位置付ける「総合政策概論A」で扱う諸課題は、少子高齢化に係る問題に限定されていることから、社会問題とその解決策を幅広く学修できる内容に適切に改めること。	留意事項 「総合政策概論A」の講義内容を社会問題とその解決策を幅広く学修できる内容に修正およびシラバスの作成を行った。(29)	
	「社会学概論」の内容は、現代社会における健康問題が主な内容になっているため、現代社会の諸課題を幅広く扱うとともに、社会学の基礎的理論や社会学的視点を涵養する社会学の概論科目にふさわしい内容に適切に改めること。	留意事項	「社会学概論」は2018年度開講科目であるため、2017年度中に講義内容を現代社会の諸課題を幅広く扱うとともに、社会学の基礎的理論や社会学的視点を涵養する社会学の概論科目にふさわしい内容に修正し、シラバスの作成を行う。

	運動場及び体育館が別地にあることから、教育に支障のないようにすることはもとより、学生の課外活動等に配慮すること。	留意事項	学生配付のハンドブック等への小平キャンパスのグラウンドや体育施設が自由に利用可能であることを記載し、入学後のオリエンテーション等で説明を行った。 (29)	
--	--	------	--	--

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常２月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<総合政策学部 総合政策学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
3. 学部・学科等の名称及び学位の名称（英語名称含む） 学部名称：総合政策学部 英語名称：Faculty of Comprehensive Policy Development 学科名称：総合政策学科 英語名称：Department of Comprehensive Policy Development 授与学位：学士（総合政策学） 英語名称：Bachelor of Arts in Comprehensive Policy Development 11-3. 各種委員会について 教学上の案件は必要に応じて教授会選出の各種委員会に付託された後、教授会に提案される。また、ウェルネス・センター、図書館、計算センター等の運営は、それぞれの運営委員会で行っている。 委員会の構成員は、委員長、各学科から委嘱された委員及び事務担当部局の長とし、委員長が招集、統括して教学に関する議題について審議し、教授会の報告事項及び審議事項に該当するものについて、委員長から教授会に提案を行うこととしている。 11-4. 全学的審議機関について 学長、学科主任、大学院研究科委員長、研究所長からなる拡大主任会議を開催し、全学的事項の調整、重要議題に関する打合せなどを行っている。	総合政策学部の設置が正式に認可されたことにより、改めて2学部体制に合わせた大学の英語名称をが審議され、Tsuda Universityと変更となった。その際に各学部・学科の英語表記も再検討された。総合政策学部の英語表記もあらためて審議され、慎重に検討の結果、海外の大学でも使われている普遍的な英語表記とすることとなった。 学部名称：総合政策学部 英語名称：College of Policy Studies 学科名称：総合政策学科 英語名称：Faculty of Policy Studies 授与学位：学士（総合政策学） 英語名称：Bachelor of Arts in Policy Studies 11-3. 各種委員会について 2学部体制に伴い、以下の全学委員会を設置し、全学的案件に対応することとなった。 ・全学学生委員会、全学入試委員会、全学教務委員会、全学研修・紀要委員会、全学国際交流委員会、全学自己点検評価委員会、全学情報サービス委員会、全学ウェルネス・センター運営委員会、全学ライティングセンター運営委員会、全学インクルーシブ委員会、全学SD・FD委員会 11-4. 全学的審議機関について 学長、副学長3名、学部長2名、学芸学部選出教員1名、総合政策学部選出教員1名、大学院委員会選出教員1名、事務局長からなる大学運営会議を開催し、本学の大学運営に関する重要事項について審議することとなった。
(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む） ① 実施体制 a 委員会の設置状況 ・FD委員会（2016年度まで）を設置。2017年度より全学SD・FD委員会設置。 b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） ・2016年度までは、学務担当学長補佐、教務委員会委員長、大学院委員会が選出する研究科委員長一名、その他必要に応じて学長が指名する者を以て構成し、不定期開催となっている。（2016年度は6回開催。） ・2017年度からは、副学長（教学国際）、学芸学部教務委員長、総合政策学部教務担当、大学院委員会が選出する研究科委員長一名、その他必要に応じて学長が指名する者を以て構成し、不定期開催となっている。 c 委員会の審議事項等 ・教育改善・向上のためのFD活動の計画・企画・実施、学生による授業評価に関わる事項、その他FD活動に関わる事項。 ② 実施状況 a 実施内容 ・学内助成事業「FD支援費」により実施されたFD活動の成果報告会	

- ・シラバスの第三者点検
- ・学生による授業評価アンケートに基づく「優良教育賞」の選考補助
- ・大学院授業評価アンケート報告会の開催
- ・研修会開催（2016年度は講演会「現代の学生気質を踏まえた大学教育」を開催）

b 実施方法

- ・講演会・研修会は、教授会終了後に実施するなど、参加しやすい時間帯に開催している。
- ・シラバス点検は、FD委員会より各教育課程の長宛に点検を依頼・実施している。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・講演会・研修会は、当日参加できなかった者には録画映像を視聴できるように整えている。2016年度は、全教員がいずれかの講演会・研修会に出席した。
- ・シラバス点検は、全教育課程より点検報告を受領している。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・FD支援費を受けて推進した取組は、成果報告会で全学にフィードバックしているほか、成果報告書の提出を義務付け、自己点検評価をととしたさらなる改善につなげている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・集中講義以外の全クラスを対象に、授業終盤に1回実施

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・科目担当者には当該科目の集計結果を製本して配付、当該科目の属する教育課程の長には該当の全科目の集計結果を配付している。学生へは、毎年5月に、前年度の集計結果の概要を大学広報誌および公式ホームページにて公表している。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

総合政策学部は、現代社会が直面する諸課題の解決や新しい社会システムの構想に取り組み、より良い社会の仕組みをつくりだすことのできる、リーダーシップを備えた女性を育成することを目的としている。

その目的のために、まず基礎として、実践的な英語力、社会の仕組みに対する基礎的な知識と理解力、データを解析し活用する力を「新しい教養」の3つの柱として「英語」、「ソーシャル・サイエンス」、「データ・サイエンス」を必修として配置した。

英語教育では、ネゴシエーション力やプレゼンテーション力、ファシリテーション力など、英語をつうじたコミュニケーション能力を高めることを大きな目標とし、そのための実践的な英語コミュニケーション科目を配備している。教育効果の面から少人数でクラスの編成とし、2017年度入学者が予定より多かったが、クラス定員を変更することなく、クラス数を増加して教育効果を維持できるようにした。英語担当者の事前研修も十分に行い、本学部の英語教育の姿勢を理解するとともに、同質の教育を提供できるような体制を整えて新学期を迎えている。

ソーシャル・サイエンスの基礎科目では、社会を成り立たせている基本的な仕組みを、政治、経済、法の観点から理解させ、社会科学の基本的素養を習得させるとともに、課題解決に必要な知識と社会認識を獲得させる授業科目を配置している。

データ・サイエンスの基礎科目では、適切なデータの収集・生成・分析によって導かれる根拠にもとづいて課題を解決する手法が近年ますます広がっていることに鑑み、講義と演習を合わせておこなうことで、データの収集・分析方法やその適切な表現方法についての理解を深め、課題解決のためにそれらを活用できる実践能力を丁寧に習得させる。そのために全員ノートパソコンを必修とし、データサイエンス科目の演習担当者による相談時間も十分に確保する体制を整えた。

全教育課程において本学部本学科は、PBL（Project-based Learning：課題解決型学習）の手法を活用するとともに、セミナーや演習などの丹念な少人数教育をつうじて、課題解決に必要な実践力や総合力を養うことを重視している。

セミナーでの教育はとりわけ本学部が目指す、リーダーシップを備えた女性の育成にとって重要となる。主体的に問題に取り組む力や当事者性、他者とのあいだで議論を深め、合意点をみだしていくコミュニケーション力、みずから解決すべき課題を発見し、課題の本質や解決の可能性を探索し、構想された解決策を実行するための行動力、こうした力を高めるため、本学部本学科は1年次から4年次まで、すべての学年でセミナーを設置する。そして全学年のセミナーにおいてリーダーシップを備えた女性を育成するための教育を展開する。本方針は、開設前に専任教職員が2度一堂に会し、学部の目的、方針の確認を行い共有し、4月を迎えている。

さらに、本学部の研究・教育充実のために、総合政策研究所を学部開設と同時に設置し、専任教員をはじめ客員教授、客員研究員も含め、総合政策学部の教育を支える研究が4月から始まっていることも特記すべき事項である。

また、本学部は、集中学習と積み上げ教育に有利で、留学もしやすい2学期4ターム制を導入した。第2タームと夏季休暇を利用した学外学修を支援するために、学外学修センターおよび国際センターによる各種説明会、オリエンテーションを数多く実施し、学生の主体的に課題を抱える社会での実践活動を支援する体制が1年目から整っている。

開設1年目である平成29年度は、募集人員110名に対し、応募者が2,141名で、入学者が162名となったが、英語、セミナーはそれぞれクラス数を増やし、少人数教育を維持している。入学後のオリエンテーション、フレッシュマンキャンプ等でセミナー教員を中心に学生たちの活発な取り組みが見え、本学の教育目的を理解し共感して入学した学生が多いことが表れている。次年度以降も、大学ガイドブック、ホームページ、オープンキャンパス等を通じ、本学部の魅力を高校生により伝え、本学部の教育目標に共感する学生の入学を目指していく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・2025年5月1日

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定（2025年5月1日を予定）

③ 認証評価を受ける計画

・2024年度に評価機関（大学基準協会）の評価を受ける予定で準備を行う

（注）・設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有 ・ 無)

b 公表時期（未公表の場合は予定時期）

(平成29年9月1日)